

ネイチャーウォッチングだより

令和4年10月26日(水)

愛知教育文化振興会

協力:岡崎女子大学・短期大学

10月22日(土)、Bグループの第2回ネイチャーウォッチングを開催しました。会場となった豊川市の東三河ふるさと公園は、御油町の自然豊かな丘陵地を利用した広大な敷地に、庭園や山野草園、展望ツツジ園など、多くの観察スポットがある県営の施設です。土曜日でもあり、朝早くからウォーキングや自然観察などに多くの人が訪れていました。



講師の藤原先生

今回の親子自然体験は、「里山の生き物ウォッチング」です。21組57名の親子の皆さんが、遊歩道を散策しながら自然観察を楽しみました。講師は元豊川市立音羽中学校長の藤原優年先生で、秋の園内で見られる植物や昆虫などを、間近に見ながら解説していただきました。

散策を始めてまず、アケビについての解説がありました。日本には3種類のアケビが見られ、葉の数などによって見分けることができます。実が割れると中の白いところを食べることができます。味は微妙とのことですが、先生が事前に採集されたアケビを求める希望者がたくさんいました。また、ウラジロやゼンマイなどシダにもいろいろな種類があることも教えていただきました。

秋は自然が姿を大きく変える季節であり、秋の七草などの花が咲き、木々の葉は色を変え散っていきます。さまざまな木の実がなり、それらは野鳥などに食べられ、種が運ばれ地面に落ちて新たな命が生まれるのです。このように、里山は自然の中でいろいろな生き物



藤原先生の解説を聞く参加者の皆さん



アサギマダラ

が関わり合っているということ、ガマズミやムラサキシキブなどの観察を通して納得することができました。

山頂近くの展望ツツジ園からは、三河湾や渥美半島、豊橋市街などが一望でき、歩き疲れた体に元気を注いでくれました。ここで少し休憩した後は、下り坂です。

「秋は野鳥などが渡りをする姿を見ることができる季節です」と藤原先生が話されたように、渡りをするチョウとして知られるアサギマダラの観察も今回の目玉でした。その美しい姿を見ることができ、思わずスマホやカメラを向ける親子が多くいました。

東三河ふるさと公園は、集合場所の管理棟付近と展望ツツジ園との標高差があるため、遊歩道には坂道や階段が多く設けられています。好天にも恵まれ、心地よい汗がにじむ観察会になりました。

最後に参加者からの声の一部を紹介します。



「里山の生き物ウォッチング」に参加された皆さん

めずらしい蝶や知らない植物を知ることができてよかったです。(子)

アサギマダラにマーキングされている理由がわかり勉強になりました。アケビを初めて見て、食べてみたいと思いました。カマキリをつかまえることができうれしかったです。(子)

自由に探索というだけでなく、ガイド付きで行動することで、いつもの野山が違う景色に見えて楽しめました。豊川に渡りの蝶がいることを知ったり、たくさん観察できたりと、貴重な体験ができました。学生さんにも大変お世話になりました。ありがとうございました。(親)